

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32507

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10212

研究課題名(和文) 患者の尊厳を尊重した看護ケア - 看護学生の倫理実践能力を高める教育方法・教材の開発

研究課題名(英文) Nursing Care with Respect for Patient Dignity -Development of Educational Methods and Materials to Enhance Nursing Students' Ability to Practice Ethics

研究代表者

白鳥 孝子 (Shiratori, Takako)

和洋女子大学・看護学部・教授

研究者番号：90331389

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、看護学生が患者の尊厳を守るための行動を自覚し実践するための教育方法・教材の開発を目的とした。第1・2段階で、患者の尊厳を脅かす場面にはどのようなものがあるのかを明らかにし、この結果を基に教材を開発した。教材はイラストで場面を表し、7つのテーマで構成した。基礎看護学実習 履修前の看護学生66名に実施したところ、イラストの示す倫理的問題の認知も高く、7つのテーマ全てにおいて患者の尊厳を尊重するために大切だという回答が得られ、本研究で開発したイラスト教材を使用した教育方法には一定の効果があったと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、臨床現場を体験した看護学生及び医療・看護・介護を受けられている人の協力を得て、患者の人権及び尊厳、プライバシーを尊重する看護倫理実践能力を育成するためのイラスト教材を作成した。その教材の効果を検証したところ、テーマへの共感性やイラスト教材の一定の効果を得られた。看護基礎教育において、患者の尊厳を尊重するための教育に特化した教育教材はないため、学術的な意義は大きい。

また、今後、この研究成果が役立てられ、それぞれの専門職が患者の人権や尊厳を意識的に尊重し、医療を利用する人々の自律が尊重され、少しでも安寧な気持ちで療養することができれば、社会的な意義が大きい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop educational methods and materials to help nursing students become aware and practice behaviors that protect the dignity of patients. In the first and second phases, we identified the types of situations that threaten the dignity of patients, and based on these results, we developed the teaching materials. The teaching materials consisted of seven themes with scenes represented by illustrations. When the study was conducted with 66 nursing students who had not yet completed Basic Nursing Practice II, they showed a high level of recognition of the ethical issues indicated by the illustrations and responded that all seven themes were important for respecting the dignity of patients.

研究分野：看護倫理学

キーワード：患者の尊厳 倫理教育 教材開発

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

医療者は高度な知識・技術とともに、患者を尊重し患者のために行動する高い倫理的能力が求められ、「看護者の倫理綱領」(日本看護協会, 2003)には、人々の生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利などの人権を尊重することが明記されている。看護教育においても倫理教育の充実がはかられているが、医療現場が複雑な業務に溢れていることや、尊厳は失われた時にはじめて実感される性質があるため、医療者が患者の尊厳を保つことの困難さがあるといわれる(長谷川, 2016)。

例えば、医療や介護の現場において、近年、身体能力や認知能力の低下した患者に対する非人道的な行為がみられる(松本, 2014)ように、身体能力や認知能力が低下した患者にとって医療者の倫理実践能力は、人としての尊厳を守るうえで非常に重要となる。患者の尊厳やプライバシーへの配慮に欠ける医療者は、無自覚のうちに患者の人権を侵害し、患者を危機的な状況に貶めかねない。また、認知能力が低下していない患者であっても、医療者との関係性が自らの医療に影響することを懸念した場合、医療者の配慮に欠けた対応に直面したとしても、そのことを医療者に訴えられない可能性がある。例えば、ALS(筋萎縮性側索硬化症)患者は、筋肉を動かせなくなるために、病状が進行すると生活上の全てにおいて介助が必要となる。このような状態で医療者から尊厳を傷つけられるよう行為を受けた場合、患者にとっての療養生活は非常に厳しいものとなる。

看護職の養成機関においては、「看護倫理(学)」を取り入れる養成機関が増加し倫理教育に重点が置かれてきている。その教育内容は、各大学で開示されている電子シラバス等を閲覧してみると、看護倫理の歴史や主要概念、倫理綱領、倫理問題への対応など知識中心の内容であり、具体的な倫理実践能力のうち、患者の人権及び尊厳、プライバシーの保護などの育成は、臨地実習を通して教育している養成機関が多いと考える。青森(2014)の調査によると、臨地実習において看護教員が感じた「人間の尊厳の尊重」に関する学生の姿勢・態度に、<患者の肌の露出を気にしない><患者に対してぞんざいな態度をとる><高圧的な態度をとる>などがあり、臨地実習において、学生が無自覚のうちに患者の尊厳を脅かす言動をとることが示唆されている。これらのことから、机上の学習と臨地実習を連関させることや、臨地実習に赴く前に、患者の尊厳を守る倫理実践能力を育む教育方法・教材を開発することが急務と考えた。

### 2. 研究の目的

本研究は、看護学生が患者の尊厳を守るための行動を自覚し実践するための教育方法・教材の開発を目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究では、第1段階から第3段階の研究で構成した。第1段階・第2段階で、患者の尊厳を脅かす場面にはどのようなものがあるのかを明らかにし、この結果をもとに、教育方法・教材の開発を行った。教材の開発においては、医療安全の分野で実績を得ているKYT(危険予知トレーニング)の手法を用いた。KYTは、「予測されるリスクを認知すること、そのうち、重点的に対策が必要なリスクを抽出し、対策をたてていく」教育手法であり、視覚的効果の高いイラストを用いる。この手法を用いることで、「看護場面においてどのような状況で患者の尊厳を脅かしやすいか」「どのように行動すればよいのか」について考え学ぶことが容易になり、誰もが活用できる教育方法・教材の開発が可能となることを期待した。その後、第3段階で開発した教育方法・教材の効果検証を行った。詳細の研究方法については、4. 研究成果で述べる。

#### 4. 研究成果

##### (1) 第1段階

目的：患者の人権や尊厳を脅かす医療者の言動について、看護学生がどのように捉えているかを明らかにする。

方法： 対象：3年次の領域別実習及び看護倫理の受講を修了した看護学生4年生とした。

方法：研究協力者に、フォーカスグループインタビューを実施した。インタビュー内容は、実習を行っていて、医療者の対応やあなたの対応で、患者の人権や尊厳、プライバシーが尊重されていないと感じた場面、自分がかかわったわけではないが、倫理的に問題があると感じた場面、大学などの看護師の教育機関において、患者の人権や尊厳、プライバシーを尊重するために必要だと思う教育内容について等であった。インタビューは録音し逐語録を作成し、質的帰納的に分析した。

倫理的配慮：研究依頼書に目的と方法、研究参加の任意性、拒否しても成績等への不利益がないこと、個人情報保護、研究結果の公表と活用などの倫理的配慮を記載し、口頭で説明し同意書を得た。調査前に、所属機関の倫理委員会にて承認を得た。

結果：看護学生15名が参加し、5名ずつ3グループにインタビューを行った。

患者の人権や尊厳を脅かす医療者の言動は、コード数の多い順に、【患者をぞんざいに扱う】【患者・家族の心情に配慮しない】【患者の尊厳に対する配慮が希薄である】【適切なインフォームドコンセントが提供されていない】【患者よりも自分の業務や他者の目を優先する】の5つであった。

##### (2) 第2段階

目的：医療や看護・介護において患者が自身の人権や尊厳、プライバシーが尊重されていないと感じる状況を明らかにする。

方法： 対象：長期間、看護者及び介護者による身体的ケアを受けた体験のある患者で、自己の意思を明確に表現できる人とした。

方法：データ収集はインタビューを用い、希望に応じてメールでも実施した。質問項目は属性の他、これまでに受けた看護及び介護において、人権や尊厳、プライバシーが尊重されていないと感じた場面とそれに対する思い、人権や尊厳、プライバシーを守るために医療者等に望むこと等であった。インタビュー内容はメモ又は録音し逐語録を作成し、メールによる回答は原文のままとした。得られたデータを医療者等の対応毎に整理し、質的帰納的に分析した。

倫理的配慮：研究依頼書に目的と方法、研究参加の任意性、拒否しても不利益がないこと、個人情報保護、研究結果の公表と活用などの倫理的配慮を記載し、口頭で説明し同意書を得た。また協力者の体調には充分配慮して実施し、インタビューの際は協力者の状況をみて途中で休憩時間を設けた。患者への依頼方法や聞き取り調査時には施設の看護師や紹介者に協力を仰ぎ患者の負担に十分に配慮して実施した。また、メールでの回答を希望する場合は、回答期限はゆとりをもって設定した。調査前に、所属機関の倫理委員会にて承認を得た。

結果：協力者はALS患者7名、脳性麻痺患者3名、筋ジストロフィー患者1名、計11名で、平均年齢は60.27(±9.49)歳、身体介護期間の平均年数は15.55(±14.56)年であった。

自己が尊重されていないと感じる対応は、コード数が多い順に、【コミュニケーションをとろうとしない・できない】【ぞんざいな態度をとる】【適切な医療行為を行わない・できない】【患者個々の身体機能について理解していない】【負の感情を向ける】【要望を聞かずにケアをする】【プライバシーを尊重しない】【異性が身体ケアをする】【心情に配慮しない】【生命維持にかかわらない望みを軽視する】であった。

### (3) 教材の開発

第1段階・第2段階の研究結果及び文献研究をもとに、倫理実践イラスト教材(以下、イラスト教材)を作成した。教材は、7テーマ・シーン21であり、誠実な対応(6シーン)/1人の人として集中してケアされる(2)/インフォームドコンセント(4)/羞恥心への配慮(3)/プライバシー(3)/患者状況を理解したケア(2)/専門的知識・技術に基づくケア(1)であった。1つのイラストシーンは基本的には2枚(1枚目と2枚目は同じイラストで、2枚目は患者の気持ちを加えて問題をわかりやすくしている)で構成し、4シーンは1枚のみで構成した。教育方法は、イラスト教材を提示し気づいたことを記載してもらう方法や、気づいたことをグループディスカッションする方法など、様々な方法が実施できるように作成した。

### (4) 第3段階

目的：作成したイラスト教材が、看護学生の患者の尊厳を尊重したケア実践へとつながる教育に活用できるか効果を検証する。

方法： 対象：「看護学概論」の単位を修得した基礎看護学実習（受け持ち実習を想定）履修前の看護学生(1・2年生)とした。

方法：研究者らが作成したイラスト教材を示し、倫理問題に対する認識や理解(クリッカーでの回答)、気づいた点を自由記載してもらった。その後、テーマ毎に解説を行い、教材に関するアンケートを実施した。イラスト教材が示す倫理問題に対する認識や理解については、クリッカーの回答{選択肢=(倫理的な問題に気づき自分の言葉で説明することができる/倫理的な問題に気づいたが説明することができない/倫理的な問題があるかどうかわからない/倫理的な問題はないと思う)の4件}から平均値を求めた。教材への気づきは質的帰納的に分析した。教材に関するアンケート{各テーマについて患者の尊厳を尊重するために大切だと思うかの問いであり、選択肢は、(とてもそう思う/そう思う/あまりそう思わない/思わない)の4件}は、単純集計を行った。教材への意見は質的帰納的に分析した。

倫理的配慮：研究依頼書に目的と方法、研究参加の任意性、拒否しても成績等への不利益がないこと、個人情報保護、研究結果の公表と活用などの倫理的配慮を記載し、口頭で説明し同意書を得た。調査前に、所属機関の倫理委員会にて承認を得た。

結果： 研究協力者は3校(看護大学および看護専門学校)に在籍する学生であり、計66名(1年生15名・2年生51名/男性3名・女性63名)で、平均年齢は19.8歳(±4.05)であった。

イラスト教材の示す倫理問題に対する認知度について(図1)

平均値が最も高値(認知度が低い)を示したのは「病棟の決まりによる清拭」、次いで「負の感情の表情で点滴を確認する看護師」「病状を付き添い者に説明する医師」であった。最も低値(認知度が高い)を示したのは「エレベーターで他の患者のことを話す看護師」、次いで「オムツ交換時の心無い言葉」「声かけとカーテンを開けるタイミング」であった。

イラスト教材の効果

図2に示した「7つのテーマ(21シーン)に関するイラスト教材」を使用し、これをツールに講義を行った。その後、実施したアンケートでは、7つのテーマについて、患者の尊厳を尊重するために大切だと思うかの問い(図2)には、未回答を除くと、テーマ全てにおいて<とてもそう思う><そう思う>という回答であり、7つのテーマの重要性が理解されていた。

イラスト教材そのものについての問い(図3)では、「イラストがあるのでわかりやすい」「実習に役に立つものであった」に対して、全回答者(66名)が<とてもそう思う><そう思う>との回答であった。しかし、状況設定が具体的でわかりやすい」に対しては、約7.6%(5名)が「わかりにくい」と回答した。自由記述においては、「実際の場面だったためとてもわかりや

すかった」「ただ言葉で説明されるより、イラストの方が特に表情などはわかりやすい。実際の現場をイメージしやすく良かった」などが肯定的な記載が多数であったが、「カラーになればもっといいなと思った」「状況が少し分かりにくいイラストがいくつかあったが、倫理教育は大切だと思った」という記載がみられた。

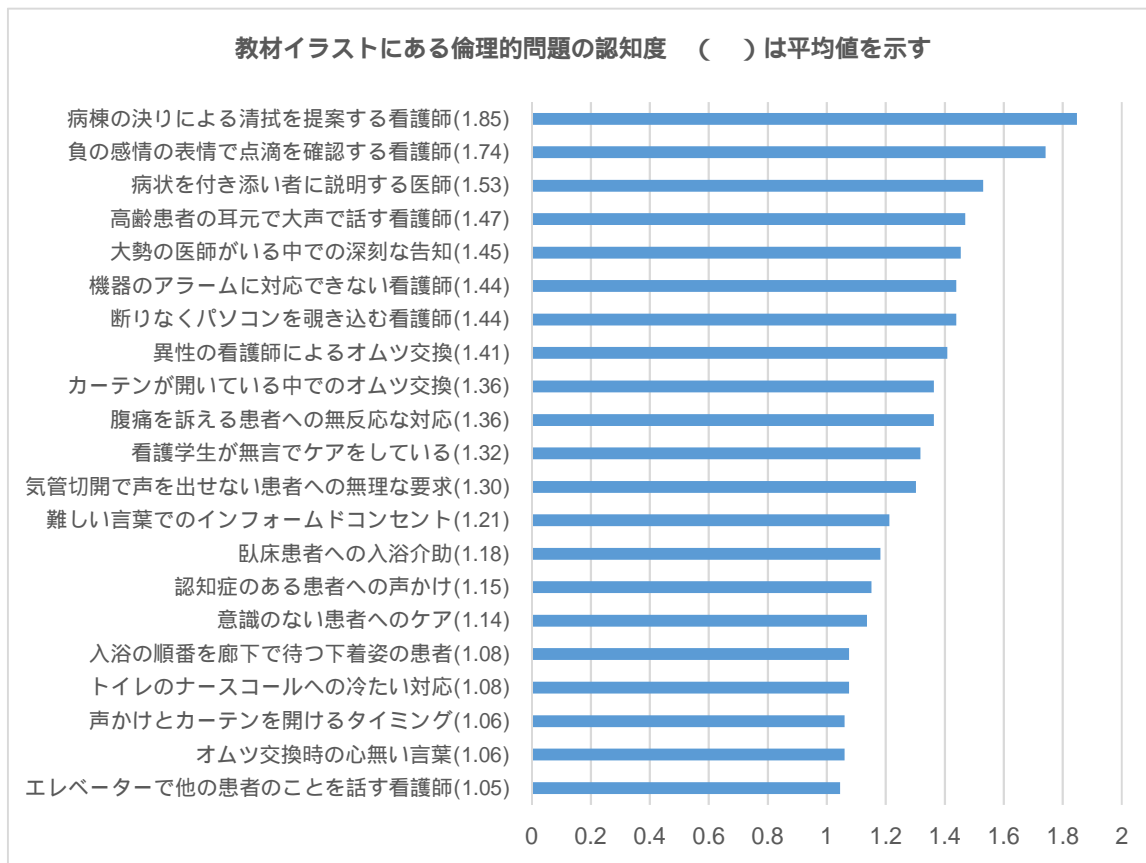


図 1

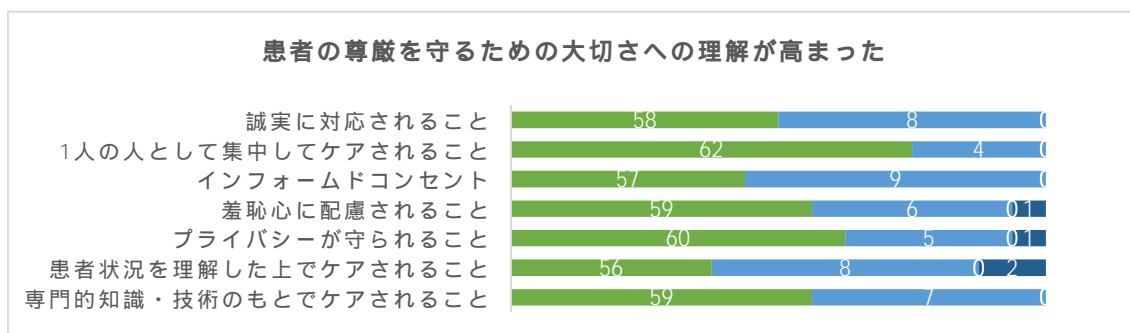


図 2

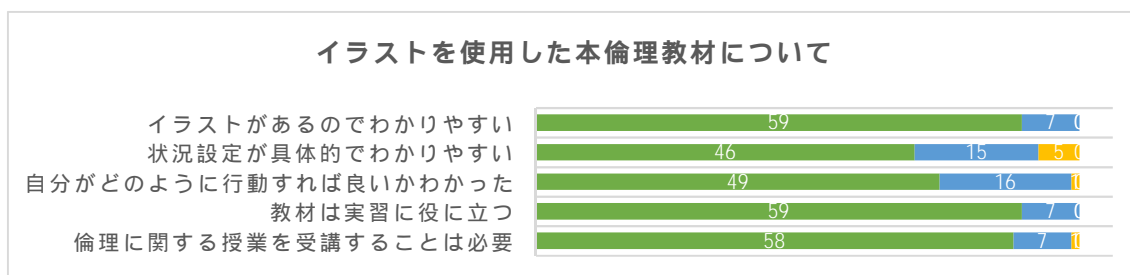


図 3

以上より、研究第 3 段階のイラスト教材の効果検証の結果、本研究で開発したイラスト教材を使用した教育方法には一定の効果があったと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 白鳥孝子, 高山詩穂, 吉澤千登勢
2. 発表標題 患者の尊厳を尊重するケアに関する研究 - ケアの受け手である患者の受けとめに焦点をあてて -
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白鳥孝子, 吉澤千登勢, 高山詩穂
2. 発表標題 Behavior of medical professionals threatening human rights and dignity of patients : Findings from interviews with nursing students.
3. 学会等名 22rd EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉澤 千登勢  (Yoshizawa Chitose)  (40461157)	帝京平成大学・健康医療スポーツ学部・教授   (32511)	
研究分担者	高山 詩穂  (Takayama Shiho)  (00625999)	聖徳大学・看護学部・准教授   (32517)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------